

おおたけづくりワークショップ 実施報告書

1. ワークショップの概要

(1) ワークショップの目的

今回のワークショップは、地域の課題や地域住民の思いを把握し、住民、関係者の中で地域の課題やあるべき姿について共通認識を広げるとともに、よりよい地域づくりのためのアイデアを拾い集めることを目的に開催しました。

(2) ワークショップの開催日時・場所

日時：平成30年12月10日（月）12：30～16：00

場所：サントピア大竹 3F 多目的ホール

(3) ワークショップの参加者

地域住民，民生委員，介護事業者職員，大竹市社会福祉協議会職員，保健医療課職員，福祉課職員，地域介護課職員 39名

(4) ワークショップの実施方法

7つのグループに分かれ、「大竹市で、元気に楽しく暮らしていくためには、どんなことや仕組みがあればよいか」をテーマに、意見を出し合い、話し合った結果を全員の前で発表を行いました。

次に、それぞれのグループ発表の中から、キーとなる項目を4つに絞り、さらに深掘し、具体策を話し合ってもらい発表を取る形でまとめました。

各グループのリーダーは事前に事務局で決めさせていただき、事前に集まり、ワークショップの趣旨や進行について話し合い共通認識をとりました。

2. ワークショップでの意見のまとめ

(1) ワークショップ1回目

テーマとして、「大竹市で、元気に楽しく暮らしていくためには、どんなことや仕組みがあればよいか」を掲げ、各自意見をだし、協議をしました。各チームから出た意見を6つのカテゴリーに分類し、まとめました。

① 近所づきあいに関して

- ・近所でのあいさつ
- ・あいさつの声が響く
- ・あったらあいさつをするルールを作る
- ・子どもたちへの声掛け
- ・声掛けができる
- ・近所の世話役を大切にする
- ・近所の井戸端会議
- ・小さな集団での連絡網づくり
- ・おせっかいな人がいる
- ・助け合える関係
- ・困った時に地域で相談できる人がいること

② 人が集まる場所の確保

- ・身近なところで集まれる場所
- ・お茶を飲んでおしゃべりできる場所
- ・高齢者のみではなく、子どもや若い人も一緒に集まれるところをつくる
- ・空き家を貸す（借りる）ルールづくり
- ・空き家の活用で集まる場所の確保
- ・低料金のスポーツジムをつくる
- ・公園に集まれる小さな小屋
- ・集会所が欲しい
- ・世代間交流の場としてサロンを活性化
- ・運動できる場所の提供
- ・自由な時間に話ができる場所

③ 人が集まるイベント

- 趣味やイベントで地域の友達づくり
- 気軽に行けるカフェ，サロン
- 子どもと高齢者がいっしょに交流できる機会
- 月に1度，困りごと相談会
- 食事会を開く
- 子育てサロンの充実
- 公民館等で運動教室などが毎週あれば良い
- おじいちゃん・おばあちゃんの寺小屋をつくる
- 集まったところで体操，ゲーム，畑，おしゃべり，ウォーキング，あいさつ運動，手芸，伝統行事をする
- 集まる場所で，行事やテーマを用意
- 地域で集まってお酒を飲むことも良い
- 住民の座談会を地域で行う
- 子ども教育の地域での支援
- 大竹のイベントや講座が一目でわかるようになればよい
- イベントをしている場所や時間が分かる
- 大竹でしているイベントが分かるサイトづくり
- 地域で趣味の会をつくる
- 友達紹介の仕組みづくり
- ウォーキングしやすい町
- いっしょに体操をする仲間づくり
- ラジオ体操全員参加
- 地域外からも人が集まるイベント
- 自分の意見を出し合い語り合える場をつくる
- 花壇づくり
- お花見など季節の行事をする
- 住民参加のウォーキング
- 夜間パトロールと夜間ウォーキングを組み合わせる
- 子どもと高齢者の交流

④ 地域の担い手づくり

- ご近所同士仲良くする
- 若い人が地元で働ける場所があれば良い
- ボランティアグループの次のリーダーの育成
- 世代交代を進める

⑤ 地域での支え合い・助け合い活動

- 自治会の関わり強化
- 高齢者（ひとり暮らし）の見守り
- 助け合いの心の醸成
- 公園の活用で子育て支援
- 子育てママの育児支援（相談）
- 孤立家庭への関わり
- 移動販売などの買物支援
- 一人暮らしの支援
- サロン活動で自立支援
- 炊き出しサービス
- 高齢者への配食サービス
- サロン活動の充実
- 避難訓練を通じての助け合いの機運醸成
- 地域に相談できる人がいる
- 一緒に通院してくれる人、いっしょに買い物をする人を作る仕組み

⑥ インフラ整備ほか

- 徒歩圏内に、食事のできる店、コンビニ、本屋、子どもづれで楽しめる場所
- 歩いて行ける範囲に、店、病院、銀行などがある・駅のエレベーターなどの整備
- コンビニやスーパーが増える
- 若い人を呼び込むため、特化した教育や大学設置など
- 買物・遊びのための交通手段の確保
- 出かけやすい環境づくり（ベンチがある）
- 窓口のまとめり
- 子どもに介護教育
- フォーマルサービス・インフォーマルサービスの充実
- 産科、皮膚科など専門病院の充実
- 高齢者サービスの充実（事業所、ショートステイほか）
- インフルエンザなどで罹患した高齢者を受け入れる場所
- 障害者のグループホームの施設
- 訪問医療の充実など
- 定期的出張診療
- 地域での健康診断・体力測定
- バス増便や電車の駅、道路の整備
- 夜の公園が暗い
- 過疎地に若い人が住める住宅や送迎のある保育所
- 小学校の送迎（クラブ後）
- 交通機関を増やす（バス増便など）
- きれいな街と治安の良い街（ゴミステーション等の整備）
- 子どもが遊べる場所をつくる
- 子どもの登下校の安全確保
- 目安箱の設置（意見が言える環境）



(2) ワークショップ 1 回目 各チームの意見の集約

A チーム

*近所づきあい

- 近所の井戸端会議
- 近所でのあいさつ
- 近所の世話役を大切にする

*人が集まる場所・イベント

- 趣味やイベントで地域の友達づくり
- 気軽に行けるカフェ，サロン
- 空き家を貸す（借りる）ルールづくり
- 月に 1 度，困りごと相談会
- 食事会を開く

*子育て支援

- 公園の活用
- 子育てママの育児支援（相談）
- 孤立家庭への関わり
- 子どもたちへの声掛け

*助け合い活動

- 自治会の関わり強化
- 高齢者（ひとり暮らし）の見守り
- 助け合いの心の醸成

B チーム

*徒歩圏内に，食事のできる店，コンビニ，本屋，子どもづれで楽しめる場所

*身近なところで集まれる場所

*子どもと高齢者がいっしょに交流できる機会

*公民館等で運動教室などが毎週あれば良い

*子育てサロンの充実

*駅のエレベーターなどの整備

*空き家の活用で集まる場所の確保

*若い人を呼び込むため，特化した教育や大学設置など

C チーム

*集まれる場所をつくる

- ・高齢者のみではなく、子どもや若い人も一緒に集まれるところをつくる
- ・おじいちゃん・おばあちゃんの寺小屋をつくる
- ・低料金のスポーツジムをつくる
- ・公園に集まれる小さな小屋

*集まったところのこと

体操、ゲーム、畑、おしゃべり、ウォーキング、あいさつ運動、手芸、伝統行事

*買物・遊びのための交通手段の確保

- ・出かけやすい環境づくり（ベンチがある）
- ・移動販売などの買物支援

*担い手育成をする

- ・ご近所同士仲良くする
- ・若い人が地元で働ける場所があれば良い

*行政を含めたお願いごと

- ・窓口のまとめり

D チーム

*空き家を利用した世代間の交流などの居場所づくり

- ・空き家を利用した集まる場所づくり
- ・集会所が欲しい
- ・お茶を飲んでおしゃべりできる場所
- ・集まる場所で、行事やテーマを用意
- ・地域で集まってお酒を飲むことも良い
- ・住民の座談会を地域で行う
- ・世代間交流の場としてサロンを活性化

*親を含めた子育て支援

- ・子ども教育の地域での支援
- ・子どもに介護教育

*フォーマルサービス・インフォーマルサービスの充実

- ・高齢者サービスの充実（事業所、ショートステイほか）
- ・一人暮らしの支援
- ・小さな集団での連絡網づくり

*バス増便や電車の駅、道路の整備

*産科、皮膚科など専門病院の充実

*安心・安全に暮らせる環境づくり

- ・夜の公園が暗い
- ・コンビニやスーパーが増える

*自立支援

- ・運動できる場所の提供
- ・サロン活動で自立支援

E チーム

- * 気軽におしゃべりする場所をつくる
 - ・ 自由な時間に話ができる場所
 - ・ 地域で集まれる場所
- * おいしい暖かい食事サービス
 - ・ 炊き出しサービス
 - ・ 高齢者への配食サービス
- * 大竹のイベントや講座が一目でわかるようになればよい
 - ・ イベントをしている場所や時間が分かる
 - ・ 大竹でしているイベントが分かるサイトづくり
- * 地域の人材育成
 - ・ ボランティアグループの次のリーダーの育成
 - ・ 世代交代を進める
- * 障害者もすみやすくする環境整備
 - ・ 障害者のグループホームの施設
- * 訪問医療の充実など
 - ・ 定期的出張診療
 - ・ 地域での健康診断・体力測定
 - ・ インフルエンザなどで罹患した高齢者を受け入れる場所
- * 楽しい場所づくり
 - ・ イベント、レジャーの充実
 - ・ 花壇づくり
 - ・ お花見など季節の行事をする
- * 世代交流を進める
 - ・ 過疎地に若い人が住める住宅や送迎のある保育所
 - ・ 子どもと高齢者の交流
 - ・ 小学校の送迎（クラブ後）
- * 地域での支え合い
 - ・ 住民参加のウォーキング
 - ・ 夜間パトロールと夜間ウォーキングを組み合わせる
 - ・ 声掛け
 - ・ 地域小グループ連絡網をつくる
 - ・ サロン活動
 - ・ 避難訓練を通じての助け合いの機運醸成
 - ・ 地域に相談できる人がいる

F チーム

- *あいさつができる関係
 - ・あいさつの声が響く
 - ・声かけられる
 - ・おせっかいな人がいる
 - ・助け合える関係
- *集まれる場所
 - ・家の近くに気軽に集まれる場所がある
 - ・子どもも高齢者も集まれる場所
 - ・趣味のサークルや活動が近くにある
 - ・近所で飲みニケーション
- *歩いて行ける範囲に、店、病院、銀行などがある
- *交通の便・手段がたくさんある
- *きれいな街と治安の良い街（ゴミステーション等の整備）

G チーム

- *地域での仲間づくり場所
 - ・地域の集まれる場所づくり
 - ・声掛け
 - ・地域で趣味の会をつくる
 - ・友達紹介の仕組みづくり
 - ・あったらあいさつをするルールを作る
- *相談できる仲間づくり
 - ・困った時に地域で相談できる人がいること
 - ・世代間交流をする
- *体操して健康維持
 - ・ウォーキングしやすい町
 - ・いっしょに体操をする仲間づくり
 - ・ラジオ体操全員参加
- *高齢者と子ども全員が住みやすい町
 - ・子どもが遊べる場所をつくる
 - ・子どもの登下校の安全確保
- *外出しやすい仕組み
 - ・一緒に通院してくれる人、いっしょに買い物をする人を作る仕組み
 - ・交通機関を増やす（バス増便など）
- *イベントの開催
 - ・地域外からも人が集まるイベント
 - ・統一的なイベント
- *意見が言える環境
 - ・自分の意見を出し合い語り合える場をつくる
 - ・目安箱の設置



(3) ワークショップ2回目 意見のまとめ

1回目のワークショップから、①集まる場所の確保、②集まるイベントの実施、③担い手の育成、④地域の支援の4つをテーマに選び、各チームで具体策について協議を深めました。

■具体策の5W1H

対策項目	だれとだれが	いつ・どこで	なにをどのようにする
町内会運動会	地域の人	秋に・体育館、公園 校庭	町内運動会を企画し世代交流を進める 打上げで酒盛りをする。
あまり外出していない人の集まり	地域の人	1回/3か月 地域の集会所	気楽に話す会を開催する。
担い手づくりの募集	自治会	役員交代の時期に 地域の集会所で	きっかけづくりを長い目でやっていく。
相談先の紹介	地域包括	年中	相談先の広報活動（広報紙、SNS、民生委員と連携）を行う。
空き家の利用	地域の人と役所	年中	空き家での活動をめざし、清掃や利用についての検討を役所としていく。
地域の提案支援	地域のボランティアと役所	市内全域で それぞれの時期に	市に対して、地域の活性化イベントの提案を行う場を設ける。参加のポイントなどの対価も検討。
できる事登録	自治会の人	年1回 地域で	地域の人でできることを出し合ってもらいまとめる。
盆踊り	地域、自治会、民間	毎年8月 晴海パークで	踊り、ビンゴ、酒で交流を行う企画をし、実行する。自治会で店も出す。
地域で婚活	若い男女	11月22日に サントピアで	パーティを開き、地元定着を図る。
雪合戦	高齢者・子ども	冬雪の降った日に 晴海パークで	楽しく雪合戦をして交流する。
事業所開放	事業所・サークルの人	随時に・それぞれの事業所等で	市民対象にそれぞれがイベントをし、交流を図っていく。
大竹を歩こう	Aチーム（我々）が各ボランティアと	年6回 市内で	ウォーキングロードを設定し、大竹を知り活性化を皆で話合う。 避難ルートを知る。
地域の声掛け	自治会	回覧版を回す時 地域で	面会して回覧板をまわすルールを作り、見守り、声掛けに利用する。
紙飛行機イベント	和紙工房（保存会）と地域の人	4～5月 総合体育館	紙飛行機を作り、飛ばす大会を開く。
おむすびづくりイベント	地域の人	1～2ヶ月に1回 集会所で	お米と炊飯器を持ちより、おむすびづくりをして楽しむ。参加していない人にも届けることで交流を活性化させる。
ソーメン流しイベント	地域の人	夏 学校の校庭等で	ソーメン流しのイベントを行い、世代間交流、地域交流とする。



3. ワークショップのまとめ

ワークショップを通じて、様々な意見をいただきました。1回目のワークショップでは、近所同士の交流の活性化、集まる場づくりと、集まる場での活動（イベント）の質や量、地域の世話役の確保・育成、生活の支援といった課題とともに、それらの活動（イベント）をどのように周知していくのかといった課題も明確になっています。

また、これらの課題は、個々の課題というよりも、相互に関連し、影響しあっていると云えます。その意味では、各地域の実情を加味しながら、連携を持った対策の検討が求められます。

2回目のワークショップでは、具体的な対応策を話し合うことで、実施すべき項目の、主体、連携先、内容がより明確化されています。様々な視点で対応策が協議されており、このような協議を今後も様々な場面で繰り返していくことで、より現実的で、行動に移せる方策が見えてくると思われます。より多くの住民を巻き込み、地域の活性化が図られることが望まれます。